

事業方針	事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育・保育の無償化を前提とした園則の変更を伴う納付金体制の見直しを行う。収益が増加した分は教職員のベースアップ、園舎修繕、エアコンのリース料等に充当することで教育環境の充実を図った。 ・家庭教育について情報発信を多く行うよう努めた。園の活動参加への呼びかけをさらに増やしていきたい。 ・環境教育のプログラムの見直しを始める。 	
	R1の決算より	<ul style="list-style-type: none"> ・北園舎のエアコンの設置はリースによることで、費用の分散化をはかることができた。ここ2年課題となっていたビオトープの改修を終えることができた。防犯対策として西門を付け替えた。 	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	満3歳児教育の充実 小学校との接続	満3歳児教育の充実を図る。無償化により満3歳児入園の希望者が増えた。発達課題のために早めの入園を希望する保護者もあり少人数での対応による支援の効果が見られる。 非認知能力を育てる幼児期の教育の特徴について様々な機会をとらえて保護者に伝える。一方で小学校との接続を意識しすぎて、幼稚園ではここまでしつけないと考える傾向が教師側に見られるため教師同士の学びが必要。
2	研究計画	指導方法のスキルアップ 活動記録を生かして振り返る	主任以上の中堅リーダーにおいて、マネジメント研修を年間4回受講。チームワークによる保育が活性化した。 教師同士の学びあいの場を、リラックスしてお互いにアイデアを出し合う場にすべき。個々の教師の経験年数が上がることで保育スキルは上がっているが自身の保育を客観的に見直すこと
3	地域連携計画	地域の自然を学ぶ	自然を意図的に保育に取り入れることは個々の教師において習慣づけられているが「地域の」という冠がついた場合に自信をもって答えられる教師は少ない。今後ビオトープの活用により子どもとともに学びを深めたい。SDGsの考え方も取り入れていく。
4	施設設備計画	園庭整備 エアコンの設置 門扉の修繕	ビオトープの整備が終了した。 高温多湿になりやすい北園舎にエアコンを整備した。 西側の門扉を取り替え防犯に努めた。
5	管理運営計画	教員の資質向上 職員の役割分担の再編成	発達課題についての研修の機会を多くすることで、個々の理解が深まった。 専門職としてのキャリアイメージを作ることが必要。特に計画性とチームワークについての学びが必要
6	財務計画	施設の多機能化を視野に入れて、シミュレーションを多くとり今後の判断に生かす	無償化により納付金の見直しがされ、教師の労働環境や施設整備に取り組むことができた。今後もより安定した園運営のために他園の状況を伺いつつ判断をしていきたい。